

鹿追のバイオマス 利活用法を学ぶ

星槎国際高校
帯広サテライト

星槎国際高校帯広サテライト（森実さとみキャンパス長）で、「地域のエネルギー資源」にスポットを当てた理科の授業が開かれた。鹿追町役場環境保全センター係の井上竜一主事が講師を務め、同町でのバイオガスプラントの利活用について説明した。

エネルギーをテーマに実施している同校前期の理科授業の一環で、13日に開かれた。同町の環境保全センターは乳牛のふん尿などを



バイオマス（エネルギーに転用可能な生物由来の資源）として、発電に使うバイオガスや、堆肥・コンポストの生成に用いている。

井上主事はバイオガスプラントについて、「国産技術が発展途上のため、稼働に必要な部品が輸入頼みと課題も多いが、ふん尿処理と発電、肥料の生成などメリットも多い。畜産酪農の十勝とは、とても相性の良い発電方法」と話した。

バイオガスプラントについて説明する井上主事

（大木祐介）